

「放射能汚染地図」で社会貢献した早川教授が訓告処分！ ～ 地に落ちた大学の権威 群馬大学に圧力をかけたのは誰か？ ～

近頃は色んなことが次々と起こるので大抵のことには驚かなくなっていた。しかし、このニュースは驚いた。驚いただけでなく、怒りがこみ上げて来た。かつての大学であれば学生が抗議デモを起こしただろう。

福島第1原発事故の放射能汚染予測を、**火山学の知見を活用した「放射能汚染地図」を作成し、いち早くネット上に掲載した群馬大学の早川由紀夫氏が、勤務校である群馬大学の学長から「訓告処分」**を受けたことをツイッター上で発信した。

政府が「speed」データーを一切出さなかった時期、一体どれだけ多くの人がこの「放射能汚染地図」をたよりに避難先を検討したり、対策の参考にしたことか……。国民栄誉賞や県民栄誉賞を与えてもいいほどの功績を残した人だ。この通信でも、いち早く取り上げて紹介した。それがなぜ「訓告処分」なのか？

私が説明しなくとも、大方の人は予想がつくだろう。大学や県、国にとって「不都合な人」に位置づけられたのだ。本当に問題のある行為をしたのであれば[処分]もありうるだろう。例えば、根拠のうすいデマに近い情報を教授という立場で広く社会に発信し、混乱を引き起こした場合など「訓告」を受けることは当然ありうる。では、早川教授の「放射能汚染地図」の発信はこうした事象に該当するのか？

答えはノーである。早川氏が火山学の知見を活用して作成した地図は、ことごとく実際の汚染状況と一致していた。しかも、データーは実測値などが明らかになる度に修正が加えられ、極めて信頼性の高いレベルにまで進化している。国会質疑でも活用されていたほどだ。

実際、処分理由を見るとさすがに地図のことには直接ふれていない。ツイッター上での発言を処分理由にしている。早川氏の地図の発表は政府の威信を大きく低下させたことは周知の通りで、今回の件と無関係とは思えない。

早川氏の行動が優れている点は、科学的なデーターを発信するに留まらず、そのデーターから予測される問題を、多くの人に知らせようと努力している点だ。放射能汚染という深刻な事態が起これば、現実的な危険性が次々と起きることは過去の例から明らかだ。**辛い現実でも伝えることが科学者の良心的態度だ。**出世や功名をねらっている者であれば論文だけを発表し、後は黙して語らずの態度でいだろう。それをしなかったための「処分」である。

地方のあまり有名ではない群馬大学(国立)の学長が、これだけ社会的に著名になった人を「自分の判断」で「訓告処分」などできるだろうか？間違いなくもっとレベルの高いところから圧力が働いたと考える以外に説明がつかない。それにしても情けない学長だ。ここにも保身しかか考えない腐敗した権威の姿を見る。権力に懐柔された大学の哀れな姿だ。

この事件は今後、大きな議論をよぶことになるだろう。首謀者があばかれ、社会的非難を受けるべきだ。原子力村の勢力の方々にとっては、大きな逆効果として跳ね返ってくるだろうし、そうしなければならない。

Hayakawa Yukio
早川由紀夫

群馬大学学長から訓告された。

訓告 (抜粋)

「貴殿のインターネット上のツイッターにおける福島県の被災者や農家の人々に対する配慮を著しく欠く発言は、運営に要する経費の大部分を国費によって賄われている国立大学の 教員として不適切な発言と言わざるを得ず、「本学の名誉若しくは信用を失墜する行為」を禁止する就業規則の規定に抵触している。」略「よって、今後はインターネット上のツイッターにおける不適切な発言をすることのないようにされたい。以上訓告する。なお、今後、不適切な発言が繰り返される場合は、懲戒処分を含む厳正な対応をとらざるを得ないこととなるので申し添えておく。」

*「大学はこれを公開するか」と尋ねた。答えは「いいえ」だった。「私がこれを公開してよいか」と尋ねた。答えはなかった。私は、訓告の意味を調べたあと、これは事実だからここに公開した。

ホームページから削除される前に、改めて早川氏の「放射能汚染地図」を掲載しておく。その精度の高さを是非、見ていただきたい。 *この地図では群馬も相当に汚染されていることがわかる。

福島第一原発から漏れた放射能の広がり
Radiation contour map
of the Fukushima Daiichi accident

2011年3月に地表に落ちた放射性物質がそのままの状態では保存されている場所の放射線量で色分けしました。芝生など草地で現在計測される数値です。この数値は3年で半分に減ります。

